

受講番号 18100 学校名 大月中学校 氏名 井上 美代子

## 研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3 生徒数 26 名  
 科目名 3年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 Sunshine English Course 3

## クラスの様子・特徴

男子12名、女子14名、計26名である。学級の雰囲気は明るくムードメーカー的な生徒もあり、元気でのびのびしている。女子はほぼ全員学習意欲があり、前向きで真面目、学力も高いが男子は学習への興味を完全に失せあきらめている生徒が多い。

## 問題の確定

CRTにおいて書く力が非常に弱いという実態、書くことが嫌いで苦手意識を持っているのでその克服をする必要があると考えた。

## 予備調査

## A 授業の観察

全体的に落ち着いて取り組んでおり私語をする生徒はいないが、多くの男子はすでに学習意欲を失っている。女子は発表もよくできるし、CIRとの授業も積極的にコミュニケーションをとっている。プリント学習時には単語が言えても、書けずにとまどっていた。

## B 生徒による授業評価

学習意欲を失っている生徒も、本当は英語がわかるようになりたいと思っている。難しい単語も覚えられたらうれしいとも感じている。重要なポイントを強調してわかりやすく説明してくれるので授業は理解できるが、書く時間をもっとゆとりとて欲しい。

## C 学力データ

CRTの分析より(2006年 2月 9日 実施) 4領域・観点別ともに全て女子は上回っている。男子は表現の能力や、言語や文化の知識が低い。特に書くことの能力が全国比より下回っている。

## リサーチ・クエスト

学習意欲のない生徒達に基礎学力をつけ、習った単語や文型を使って身の回りのことを表現して書けるようにするためにはどのような指導をすればいいか。

## 仮説・実践・検証

## 仮説1

自作の新出文型のシンプルなプリントを度々おこなうことでその文型に慣れ、定着できるのではないか。

## 実践1

授業の始めに前時の復習も兼ねた新出文型を取り入れた。次の新出文型を習う2～3時間の間、部分的に単語を変えただけのシンプルで文型のポイントを絞った文の反復練習を心がけた。同じ文型プリントの中で同じ単語が何度か出てくるように工夫し、5分ほどで記入させ、生徒に答えを黒板に書かせた。

## 検証1

最初は、理解できていなくてもプリントを使いながら同じ文型の反復練習をすることで、だんだんと答え合わせの時の挙手の人数が多くなり、授業に参加しようとする態度が男子達に見られるようになった。しかし、定着はその場限りで、その文型を用いながら、自分のことや身の回りのことを表現することができずには至っていない。

## 仮説2

教科書だけではなく副教材などを使って読む・話す活動を多く取り入れることで新出文型の理解が深まり、その文型を使って表現することによって書く力がつくことにつながるだろう。

## 実践2

1～2週間に一度の町のCIR訪問の時には、その時に習っている文型を使ったワークシートを作った。そして全員がその文型を使って質問をしなくてはならないインタビューの方法をとり、相手に聞きその答えを自分のワークシートに書き込ませる方法をとった。また既習文型や単語の音読練習をペアで行った。

## 検証2

シンプルであり、かつ大切なポイントが絞ってあるインタビュー形式のワークシートは英語が苦手、意欲のない生徒達にも取り組みやすく、効果的な表現練習であったと思う。また英語で話して通じて、そして書くという流れがこのような活動にはあるので自然に英語が身に付き書くことができるようになるのではないだろうか。ただ生徒の中には聞き取れていても単語や文が書けないのでカタカナでワークシートに書き込んでいた生徒もいた。

## 仮説3

日々の英単語練習の宿題をただ単語の羅列ではなく、英語の語順を確認しながら文を書く練習をすることで、語順や文の定着につながり、日々ただの義務感だけで書いている宿題(書くこと)への抵抗感がなくなり、定着へつながるだろう。

## 実践3

今までただ単語の羅列だった毎日の宿題を、その日の授業で学習した文型・表現の仕方を焦点化し、練習するように促した。また文型プリント一覧表を作成し、練習するべき文・単語を具体化して示した。その日の学習→家庭での自学(宿題)→次の日の授業での学習といったように学習に1つの流れを作り系統だった学習が実践できるように試みた。

## 検証3

日々の課題(毎日1ページ)のノートの内容には生徒一人一人かなりの差がある。それを3年間続けるのだから相当な学力の差となるのではないかと、家庭学習に着目して仮説を立て実践した。ノートの書き方さえ満足ではなかった何人かの生徒の単語の書き方や文の書き方が明らかにようになった。しかしそれが文型理解や定着につながるにはもっと時間が必要である。

## 研究の成果

基本文型の定着と、それを使い表現して書くことができることに絞って取り組んできた。書くことが嫌い、英語が嫌い、学習意欲がない生徒達も実は英語がわかりたい・書きたい・話したいと思っている。基本の表現の反復練習を繰り返し、できたときやわかったときの達成感を味わわせ次に学習していく意欲を持たせたいと思い、取り組んできた。重要基本文をシンプルな単語や表現を用いプリントし、繰り返しおこなったことはテストの点などに顕著に表れた生徒もいたことなどから定着につながった。

## 今後の授業改善の課題

授業の中で英語に多く触れ、習った文型を用い表現できるように指導を工夫していきたい。本校の生徒達は町のCIRとの交流も自然にでき、英語を話す照れや恥ずかしさはない。しかし、教科書の習った文型を用いて表現できている生徒はそんなに多くないし、書くことは全く別次元の学習としてとらえている感もある。4技能が英語学習の1つの流れで理解・定着できるように改善しこれからも取り組んでいきたい。